



No. 83

# The University of Tokyo Forests News

# 科学の森ニュース

September 10, 2018

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 北海道東北地区大学演習林等技術職員研修を開催

北海道演習林

6月11日（月）～15日（金）、全国大学演習林協議会の標記研修を「森林におけるドローンの活用」をテーマとして開催しました。北海道演習林技術職員が講師を務めた本研修では、ドローン運用に関する知識を深めるとともに、操縦・空撮から、画像処理、取得データの林地での活用までの一連の作業技術を体験・習得しました。受講者からは「林地での使用を前提とした実践的な講習だったので勉強になった」等の感想がありました。また、ドローン運用に関する大学間の情報交換の場としても有意義な機会となりました。



実機を用いた操縦の研修

## 春のガイドツアー 演習林の試験地見学 亜高山帯編

秩父演習林

6月13日(水)に亜高山帯の森林を見学するガイドツアーを行いました。今回は、初めての試みとして林業用モノレールに乗るコースを設定しました。平日にも関わらず、募集定員以上の方にご応募いただき、8名の方に参加していただきました(モノレールの定員が上限8名(運転手を除く))。演習林の試験研究の一部を紹介しながら標高約1,700mの森林にアプローチして、亜高山帯の森林を散策しました。参加者はモノレールに興味がある方が多く、乗車できて大変喜ばれていました。天候にも恵まれ、安全にイベントを完了することができました。



モノレール前での集合写真

## 国立台湾大学でのワークショップ

国際交流委員会

日本学術振興会研究拠点形成事業「アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築」のワークショップが6月24日(日)～29日(金)に国立台湾大学で開催され、福田本部林長をはじめ11名の教員が参加しました。台湾国内のほかソウル国立大学(韓国)、マレーシアサバ大学(マレーシア)、カセサート大学(タイ)からも研究者・学生(合計88名)が参加し、進行中の研究や今後の共同研究について発表・議論しました。ワークショップ後は、戦前まで東京帝国大学の演習林だった国立台湾大学

の演習林でエクスカージョンが行われ、当時に植栽された日本産のスギの人工林などを見学しました。スギの人工林については、台湾、韓国、日本で同時期に植栽された試験地を比較する共同研究も進んでいます。



1926年に植栽されたスギ人工林の試験地にて撮影

## 海南大学の学生が東大演習林の サマープログラムに参加

国際交流委員会

海南大学熱帯農林学院の学生10名が来日し、7月10日(火)～16日(月)までの1週間、東京大学国際短期プログラム「東京大学演習林で学ぶ森林管理～動植物・文化・研究～」に参加しました。前半は千葉演習林、後半は富士癒しの森研究所でさまざまな森林を見学し、森林生態系の特徴、森林を巡る人々の生活や文化、目的による森林管理の違い等について学びました。千葉のヤマビルに悲鳴をあげたり、山中湖畔の草山で日本の酷暑を体験したりもしましたが、中国との違いを感じながらそれぞれの視点で森林管理の基本を学んでいきました。



富士山旧登山道3合目に登って記念撮影

生態水文学研究所の犬山研究林の砂防工事施設群が「日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造物群」として、千葉演習林の浅間山、樹芸研究所のクスノキ林、天然林施業実践地の北海道演習林に続き東京大学の演習林では4つ目の林業遺産に認定されました。

大正11(1922)年に設置された生態水文学研究所(旧・愛知演習林)は、近代砂防工学の祖である諸戸北郎博士の砂防工学実験・教育用のフィールドとして利用されてきました。諸戸博士はオーストリア・フランスへの留学で得た知見を日本の国情に合わせた理論的技術として体系化し、その普及と人材の育成に多大な貢献をしました。生態水文学研究所の研究林の中でも犬山地区は多くの溪間工事が行われました。これは諸戸博士の問題意識であった小規模溪流における山地保全のためであったと考えられます。

今回、溪間工事建造物群としてコンクリート放水路付土堰堤、鉄線蛇籠堰堤×17、土堰堤、橋梁×2(跡地含む)がまとめて林業遺産に認定されました。なかでも溪間工事建造物群のコア資産であるコンクリート堰堤は、学生実習や技術者講習会における見学・視察の対象となり、近代砂防技術者養成に資したといえます。これらの建造物は現在も砂防・緑化工事の先駆的工事として、紹介する見学プログラムが市民向け講座で実施されています。林業遺産認定後も実習や市民向け講座を通じて、犬山研究林の意味とその価値について伝えていく予定です。



昭和4(1929)年と平成28(2016)年のコンクリート放水路付土堰堤

### 演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧ください。各地方演習林にお問い合わせください。

#### 【9月】

- 1日せと環境塾サイエンスキャンプ2018(生水研)
- 3-5日 体験活動プログラム「癒しの森の森林管理」☆(富士)
- 12日 第4回「癒しの森の植生調査隊」(富士)
- 13-17日 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ(夏)3」☆(樹芸)
- 16日 シデコプシの会「キノコ調査会」◆(生水研)
- 26日 天津小学校「緑の教室」◆(千葉)
- 未定 千葉演習林ボランティア会 Abies「マテバシイ集め&加工」◆(千葉)
- 未定 千葉県森林インストラクター会「会員研修会」◆(千葉)

- 未定 千葉演習林ボランティア会 Abies・千葉シニア自然大学「自然観察会」◆(千葉)
- 未定 チョコレート作りを体験しよう!◆(樹芸)

#### 【11月】

- 1日 君津市スクールミュージアム「東大演習林見学会」◆(千葉)
- 2-4日 全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング」☆(富士)
- 4日 第33回「子ども樹木博士」認定会(田無)
- 4日 休日公開(田無)
- 7日 秋のガイドツアー「森林調査体験と秋の溪畔林散策」(秩父)
- 17日 犬山市民総合大学現地講義(生水研)
- 18日 犬山市「秋のふれあい自然観察会」(生水研)
- 25日 とよた森林学校講座「森林と水資源と山地災害」(生水研)
- 27-28日 千葉演習林ボランティア会 Abies「お月見研究」◆(千葉)
- 28-29日 平成30年度 技術職員等試験研究・研修会議◆(秩父)
- 未定 鴨川市共催事業「野鳥の巣箱をかけよう(工作編)」◆(千葉)
- 未定 千葉県森林インストラクター会「会員研修会」◆(千葉)
- 未定 樹木年輪研究会・組織と材質研究会合同シンポジウム  
エキスカッション◆(生水研)

#### 【10月】

- 6日 東大教職員向け特別ガイド「きのこに親しむ」◆(富士)
- 6-8日 体験活動プログラム「南伊豆という地域との連携に学ぶ」☆(樹芸)
- 8日 神社山自然観察路秋季一般公開(北海道)
- 13日 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」☆(千葉)
- 13-14日・27-28日 全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」☆(秩父)
- 20-21日 全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」☆(富士)
- 21日 シデコプシの会「会員募集用研究林見学会」(生水研)
- 25日 公開講座「樹木のボディランゲージ」(秩父)
- 27-28日 千葉演習林ボランティア会 Abies「お月見研修会」◆(千葉)

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他

コテングコウモリ

ヒナコウモリ科 テングコウモリ属

学名：*Murina ussuriensis* Ognev, 1913

北東アジアに分布する食虫性コウモリで、体長5cm、体重5gほどと非常に小さく、その名の通り前方に伸びる鼻が特徴的です。東～北日本の森林では普通に見られ、北海道演習林でも最も頻繁に確認されるコウモリです。夜の森林内をヒラヒラと巧みに飛び回りながら、飛翔昆虫だけでなく、地表徘徊性昆虫や葉っぱの上の芋虫なども捕食しているようです。夏～秋にかけて、日中にイタドリやヤマブドウなどの葉が枯れて丸まった中で休息しているのがよく観察されますが、冬は雪中で過ごしている可能性が高く、北海道演習林でも早春に雪上で見つかります。



イタドリの枯葉の中で休息中（左）  
雪上の穴の中で発見（右）

コラム

農学コンテンツ

企画部 蔵治光一郎

大学院農学生命科学研究科は、140年を超える研究と教育の歴史を有しています。その研究・教育活動の過程で、観測データ、写真、地図、動植物標本、道具機械など、さまざまな資料が蓄積されてきました。研究室や附属施設に所蔵されてきたこれらの資料は、研究科内の研究者によって、これまでさまざまに活用されてきました。しかし、これらの資料の有用性や汎用性にもかかわらず、現状においては、研究科の外にはそれらの存在自体があまり知られてはいません。研究科は、これらの資料を「農学コンテンツ」と捉え、デジタル化して広く公開することによって、研究領域を超えて今後の研究・教育に活用していきたいと考え、デジタル化作業を少しずつ進め、研究科ホームページで順次、公開しています。7月31日現在で公開されている4件の農学コンテンツのうち3件「千葉演習林所蔵1922～1990年に採集された維管束植物標本画像データベース」「生態水文学研究所の長期水文データ」「東大演習林に設けた試験流域で観測した水文・水質データ」が演習林のコンテンツとなっており、今後も増やしていく計画です。



農学コンテンツとして公開されている  
千葉演習林所蔵標本画像データベース

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第83号 (No. 83)

発行日 平成30年9月10日

発行人 福田健二

編集人 後藤 晋

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2017@uf.a.u-tokyo.ac.jp